

教科名	国語		担当者				
科目名	国語表現						
履修学年	3	コース	全	必修・選択	必修	履修単位	3
使用教科書（出版社）	国語表現（大修館書店）						
使用副教材（出版社）	国語基本問題集（中部日本教育文化会） 国語表現 基礎練習ノート（大修館書店） 新訂 国語図説 六訂版（京都書房）						
学習の到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。 ・ 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 ・ 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様ななかかわりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	・実社会で必要とされる語句、自己の思いを表現するために必要な語句の量を増やし、話や文章の中で使うことを通して語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・実社会や他者とのなかかわりの中で言葉の働きやその特徴、役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。		・実社会における他者との多様ななかかわりの中で自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 ・目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を見定め、伝えたいことを明確にしている。 ・適切な根拠や具体例等を効果的に用いるなど、文章表現やスピーチ等の構成や展開を工夫している。		・言葉がもつ価値への認識を深め、実社会における他者との多様ななかかわりの中で伝え合う力を高め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。 ・自分の思いや考えを伝える際の言語表現を豊かにする読書の意義と効用について理解を深め、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。		
評価の方法	・定期考査、課題考査 ・小テスト ・課題、成果物 ・発表、パフォーマンス		・定期考査、課題考査 ・小テスト ・課題、成果物 ・発表、パフォーマンス ・ノート、ワークシート		・振り返り活動 ・学習状況の観察 ・小テスト ・ペア、グループワーク ・課題、成果物 ・ノート、ワークシート		
評価の重み	30%		40%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査まで	【第1部】表現力を培う 1 言葉と出会う 【第2部】表現を楽しむ		【第1部】1言葉と出会う レッスン1「言葉と表記」、2「整った文を書く」、3「相手に応じた言葉遣い」、4「わかりやすい文を書く」、5「文のつながり方」、【表現への扉】「敬語は言葉の身だしなみ」、【第2部】1言葉で遊ぶ、			
	期末考査まで	【第1部】表現力を培う 2 伝える、伝え合う 4 自己PRと面接 【第2部】表現を楽しむ		【第1部】2伝える、伝え合う レッスン1「自己紹介ゲーム」、4自己PRと面接 レッスン1「自分を見つめて」、2「効果的な自己PR」、3「将来の自分を考えよう」、4「志望理由を書こう」、5「自己推薦書や学修計画書を書く」、【第2部】2無人島で生き残れ			
2	中間考査まで	【第1部】表現力を培う 5 メディアを駆使する 6 会話・議論・発表 【第2部】表現を楽しむ		【第1部】5メディアを駆使する レッスン1「通信文を書き分ける」、2「電話を使いこなす」、3「電子メールを活用しよう」、6「メディアと情報」、【表現への扉】「メディアって何?」、6会話・議論・発表 レッスン1「相手や場面に応じた会話」、3「スピーチをしよう」、【第2部】11演説合戦にチャレンジ			
	期末考査まで	【第1部】表現力を培う 3 小論文・レポート入門 読書のひろば		【第1部】3小論文・レポート入門 レッスン1「小論文とは何か」、3「文章を読み取って書く」、【表現への扉】「ロボット社会の本質/コインは円形か?」、5「発想を広げて書く」、6「レポートを書く」、「ビブリオバトルをしよう」			
3	学年末考査まで	【第2部】表現を楽しむ		3日常生活の正しい過ごし方、5「わが町自慢」のパンフレット作り、6働く人にインタビュー、7たほいやゲームをしよう、8みんなで作ろう国語辞典、9「私の虫類図譜」を作ろう、10 エッセイを書こう、12 こちら悩みごと相談室、13 開廷! 模擬裁判			
学習についてのアドバイス	「国語表現」は、「書くこと」「話すこと・聞くこと」の各領域で、言葉を使ったさまざまな表現活動を行います。表現作品の提出や、発表・パフォーマンスの取り組みに重点をおいて取り組んでください。表現活動を通じて、実社会において必要となる適切な表現や言葉遣いを身につけ、他者との多様ななかかわりの中で自分の思いや考えを広げたり深めたりし、言葉を通じて他者や社会に主体的に関わろうとする態度を養いましょう。						

教科名	地理歴史		担当者				
科目名	地理総合						
履修学年	3年	コース	全	必修・選択	必修	履修単位	2
使用教科書（出版社）	地理総合（実教出版）						
使用副教材（出版社）	最新地理図表 GEO ジオ（第一学習社）						
学習の到達目標	地図の見方、読み方を理解できる。世界の諸地域の自然環境や文化を理解し、国際理解や国際協力の在り方について深く考察することができる。持続可能な社会づくりを目指し、災害や地域課題への関心を深めることができる。						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	様々な地図や地球儀を見ることによって、その目的や利用方法について理解することができる。世界の諸地域の自然環境を捉え、その現象や要因を理解することができる。諸災害を理解し、持続可能な地域づくりへの知識を深めることができる。		地図や世界の諸地域の状況について考察し、説明することができる。世界の諸地域について調べたことを文章にまとめ、発表することができる。		与えられた課題について自ら調べ、各自のペースでまとめることができる。学習した内容について多角的に調査する姿勢をもつことができている。		
評価の方法	・定期考査 ・小テスト		・定期考査 ・小テスト ・レポート		・課題提出 ・グループ発表		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査まで	地図や地理情報システムでとらえる現代社会		○球面と平面、緯度と経度、地図、国家の領域 ○日本の位置、国家間の結び付き、グローバル化 ○世界の交通、物流、観光			
	期末考査まで	生活文化の多様性と国際理解		○自然環境と生活文化 ○産業の進展によって変化する生活文化			
2	中間考査まで	生活文化の多様性と国際理解		○国家・民族・言語の結び付きと生活文化 ○宗教に基づいた生活文化 ○移民とともに形成された生活文化			
	期末考査まで	地球的課題と国際協力		○人口問題、食料問題、都市・居住問題 ○エネルギー、地球環境問題			
3	学年末考査まで	持続可能な地域づくりと私たち		○自然災害と防災 ○地域調査			
学習についてのアドバイス		教科書や資料集だけではなく、日ごろから新聞の時事問題やニュースに関心をもっておくと理解が深まりやすいです。また、自分の言葉や文章で表現できると知識が整理されていきます。					

教科名	数学		担当者				
科目名	数学 A						
履修学年	3	コース	全	必修・選択	必修	履修単位	2
使用教科書(出版社)	新 高校の数学 A(数研出版)						
使用副教材(出版社)	新課程 新高校の数学 A 対応 教科書学習ノート数学 A(数研出版)						
学習の到達目標	図形の性質, 場合の数と確率について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	図形の性質, 場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し, 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		図形の構成要素間の関係などに着目し, 図形の性質を見だし, 論理的に考察する力, 不確実な事象に着目し, 確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力を養う。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
評価の方法	定期考査 確認テスト・小テスト		単元テスト グループ活動		振り返りシート ノートなどの課題提出 自主レポート		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査 まで	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数		1. 集合 2. 集合の要素の個数 3. 和の法則と積の法則 4. 順列			
	期末考査 まで	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 第2節 確率		5. 組合せ 1. 事象と確率 2. 確率の計算			
2	中間考査 まで	第1章 場合の数と確率 第2節 確率		3. 独立な試行と確率 4. 条件付確率 5. 期待値			
	期末考査 まで	第2章 図形の性質 第1節 平面図形		1. 図形の基本 2. 角の二等分線と線分の比 3. 三角形の外心, 内心, 重心			
3	学年末考査 まで	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 第2節 空間図形		4. 円周角の定理 5. 円に内接する四角形 6. 円の接線 7. 方べきの定理 8. 2つの円 9. 作図 1. 空間の直線 2. 正多面体 3. 立体の切断			
学習についてのアドバイス		定期考査に加えて, 単元テストや課題, 自主レポートの提出があります。定期考査の勉強だけでなく, 日々の授業に前向きに取り組ましましょう。					

教科名	数学		担当者				
科目名	進学・就職試験対策						
履修学年	3	コース	全	必修・選択	選択	履修単位	2
使用教科書（出版社）	坂田アキラの医療看護系入試数学 I・A が面白いほどわかる本（KADOKAWA）						
使用副教材（出版社）							
学習の到達目標	高1高2の学習内容をベースとして、定理・公式を考察し、知識理解を深め活用していく。既習内容を踏まえ、1つの問題に対して多角的なアプローチを試みる態度を養う。進路に応じての問題演習を中心に、受験等に対応できる数学力を身につける。						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	数と式、2次関数、図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		図形の性質を見だし、論理的に考察する力、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、関数関係に着目し、表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力を養う。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
評価の方法	定期考査 確認テスト・小テスト		単元テスト グループ活動		振り返りシート ノートなどの課題提出 自主レポート		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査 まで	中学校の復習 第1章 数と式の徹底攻略 第2章 2次関数の徹底攻略		展開の公式と因数分解、2次関数のグラフ、2次関数の平方完成、2次関数の最大値・最小値、2次不等式			
	期末考査 まで	第4章 三角比の徹底攻略 第6章 場合の数・確率・統計の徹底攻略		三角比の値、三角比の相互関係、三角方程式、正弦定理・余弦定理・面積の公式 積の法則、順列・円順列・重複順列、組合せ			
2	中間考査 まで	第6章 場合の数・確率・統計の徹底攻略		同時に取り出すときの確率、順に取り出すときの確率、同じことを繰り返すときの確率			
	期末考査 まで	第3章 絶対値の徹底攻略 第5章 集合と命題の徹底攻略		絶対値の基本、絶対値と方程式、絶対値と不等式 命題とその真偽、逆・裏・対偶、必要条件と十分条件			
3	学年末考査 まで	第7章 平面図形と図形の計量の徹底攻略		方べきの定理、三角形の五心、チェバの定理とメネラウスの定理			
学習についてのアドバイス		定期考査に加えて、単元テストや課題、自主レポートの提出があります。定期考査の勉強だけでなく、日々の授業に前向きに取り組みましょう。					

教科名	理科		担当者				
科目名	科学と人間生活						
履修学年	3	コース	全	必修・選択	必修	履修単位	2
使用教科書（出版社）	高等学校 科学と人間生活（第一学習社）						
使用副教材（出版社）	無し						
学習の到達目標	・自然と人間生活とのかかわり、および科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察・実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	科学技術の発展の人間生活への貢献、身近な事物・現象を通しての現代の人間生活と科学技術の関連性についての知識を身につけ、これからの科学技術と人間生活のあり方について理解する。		身近な事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験、調査などを行うとともに、これからの科学と人間生活とのかかわり方について科学的・論理的に思考し、判断する。そこから導き出した自らの考えを的確に表現する。		身近な事物・現象に関心や探究心を持ち、科学的な視点・考察力を養うとともに、科学技術に対する関心を高める態度を身につけている。		
評価の方法	・定期考査 ・小テスト		・定期考査・小テスト ・プリントや実験レポート記述 ・グループ活動記録		・単元の振り返りシート ・ファイルなどの課題提出 ・グループ活動記録		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査まで	第Ⅳ章 地球や宇宙の科学 第Ⅰ節 自然景観と自然災害		①日本列島のなりたち ②火山活動と地表の変化 ③火山災害と防災 ④地震活動と地表の変化 ⑤地震災害と防災 ⑥気象災害と防災			
	期末考査まで	第Ⅱ章 生命の科学 第Ⅰ節 ヒトの生命現象 第Ⅲ章 熱や光の科学 第Ⅱ節 光の性質とその利用		①ヒトの視覚（1） ②ヒトの視覚（2） ③光の発生と速さ ④光の反射・屈折 ⑤光の分散 ⑥光の散乱			
2	中間考査まで	第Ⅰ章 物質の科学 第Ⅰ節 材料とその利用		①金属と人間生活 ②金属とその精錬（1） ③金属とその精錬（2） ④金属のさびと合金 ⑤資源の再利用（1） ⑥資源の再利用（2）			
	期末考査まで	第Ⅲ章 熱や光の科学 第Ⅰ節 熱の性質とその利用		①温度と熱運動 ②熱容量と比熱（1） ③熱容量と比熱（2） ④熱の伝わり方 ⑤仕事や電流と熱の発生			
3	学年末考査まで	第Ⅱ章 生命の科学 第Ⅱ節 微生物とその利用		①身近な微生物 ②微生物の発見 ③生態系内の微生物（1） ④生態系内の微生物（2） ⑤微生物の利用			
学習についてのアドバイス		日々の学習とともに、考査のときのファイル提出、夏休みの課題等、提出物をしっかり提出してください。わからないときは周りの教員に積極的に質問してください。					

教科名	保健体育		担当者				
科目名	体育						
履修学年	3年	コース	全	必修・選択	必修	履修単位	2
使用教科書(出版社)	現代高等保健体育(大修館書店)						
使用副教材(出版社)	無し						
学習の到達目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続できるようにすること						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<p>体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方を理解しているかどうか。 また新たに技や動き及び得意技を身に付け、記録や技に挑戦しているか、ルールを工夫して試合をしたり、発表したりできるか、多様な機会でも継続して運動やスポーツを実践できるかどうか。</p>		<p>生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えられるかどうか。</p>		<p>フェアなプレイを大切にし、互いに助け合い高め合おうとしたり、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たしたりする等、健康・安全を確保し、主体的に取り組もうとしているかどうか。</p>		
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技テスト ・授業中の発言 ・教師による行動観察 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言 ・教師による行動観察 ・プリントやレポート等による記述 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言 ・教師による行動観察 ・グループ活動 		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	学習内容						
1	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・シャトルラン ・バドミントン/ソフトボール/テニス/卓球 ・水泳/陸上競技 ・体づくり運動 ・体育理論(3単元 豊かなスポーツライフの設計) 						
2	<ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボール/バレーボール/サッカー ・バドミントン/卓球/テニス ・体づくり運動 ・体育理論(3単元 豊かなスポーツライフの設計) 						
3	<ul style="list-style-type: none"> ・バドミントン/バスケットボール/卓球 ・体づくり運動 ・体育理論(3単元 豊かなスポーツライフの設計) 						
学習についてのアドバイス	<p>仲間と協力して、楽しさや喜びが感じられるように、課題を持って取り組みましょう。ルールを守り、公正、公平な態度で、授業に積極的に参加する姿勢を大切にしてください。また運動に適した体育着に着替え、用具の安全や体調に十分配慮しながら、運動するようにしてください。</p>						

教科名	保健体育		担当者				
科目名	体育(男子)						
履修学年	3年	コース	全	必修・選択	必修	履修単位	2
使用教科書(出版社)	現代高等保健体育(大修館書店)						
使用副教材(出版社)	無し						
学習の到達目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続できるようにすること						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<p>体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方を理解しているかどうか。 また新たに技や動き及び得意技を身に付け、記録や技に挑戦しているか、ルールを工夫して試合をしたり、発表したりできるか、多様な機会でも継続して運動やスポーツを実践できるかどうか。</p>		<p>生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えられるかどうか。</p>		<p>フェアなプレイを大切にし、互いに助け合い高め合おうとしたり、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たしたりする等、健康・安全を確保し、主体的に取り組もうとしているかどうか。</p>		
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技テスト ・授業中の発言 ・教師による行動観察 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言 ・教師による行動観察 ・プリントやレポート等による記述 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言 ・教師による行動観察 ・グループ活動 		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	学習内容						
1	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・シャトルラン ・バドミントン/ソフトボール/テニス/卓球 ・体づくり運動 ・体育理論(3単元 豊かなスポーツライフの設計) 						
2	<ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボール/バレーボール/サッカー ・バドミントン/卓球/テニス ・体づくり運動 ・体育理論(3単元 豊かなスポーツライフの設計) 						
3	<ul style="list-style-type: none"> ・バドミントン/バスケットボール/卓球 ・体づくり運動 ・体育理論(3単元 豊かなスポーツライフの設計) 						
学習についてのアドバイス	<p>仲間と協力して、楽しさや喜びが感じられるように、課題を持って取り組みましょう。ルールを守り、公正、公平な態度で、授業に積極的に参加する姿勢を大切にしてください。また運動に適した体育着に着替え、用具の安全や体調に十分配慮しながら、運動するようにしてください。</p>						

教科名	英語		担当者				
科目名	論理・表現 I						
履修学年	3年	コース	全	必修・選択	必修	履修単位	2
使用教科書(出版社)	VISTA Logic and Expression I (三省堂)						
使用副教材(出版社)	VISTA Logic and Expression I サブノート (三省堂)						
学習の到達目標	<p>日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 必要な情報を聞き取ったり、読み取ったりすることで、相手の意図を把握したり、概要や要点を捉えることができる。 2. 基本的な語句や文を用いて情報や考えなどを伝え合ったり、論理だてて話すことができる。 3. 基本的な語句や文を用いて情報や考えなどを書いて伝えることができる。 						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<p>外国語の4技能(聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと)について、実際に活用できる知識・技能を身に付けている。</p> <p>外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。</p>		<p>場面、目的、状況等にに応じて、日常的话题等の幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり、適切に伝えあっている。</p> <p>聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。</p>		<p>他者を尊重し、利き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。</p> <p>言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p>		
評価の方法	定期テスト 小テスト		スピーチの内容 英作文等の提出物		グループ活動 単元の振り返り ノートなどの課題提出		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
I	期末 考査 まで	<p>Let's Start1,2,3,4</p> <p>LESSON 1 Bouldering? How nice! LESSON 2 Famous People LESSON 3 Aquarium Adventure LESSON 4 My Summer Plan LESSON 5 UFO Sightings LESSON 6 Homestay Gトレ1,2 Lesson1,2,3,4,5,6 Activity Station 1,2 Daily Conversation 1,2</p>		<p>Let's Start1,2,3,4</p> <p>[言語材料] アルファベット/語/文の構造/接続詞/文の構造/前置詞の確認</p> <p>LESSON1,2,3,4,5,6</p> <p>[言語材料] be 動詞/一般動詞の現在形・過去形 現在進行形・過去進行形/未来表現/現在完了形</p> <p>[言語活動] 学校生活・日常生活についてインタビューや対話をする。スピーチをする。自分の意見・考えを書く。共感や許可の表現、スピーチのやり方を知る。 リスニングを行う。</p> <p>Gトレ 1,2 文法事項復習 Activity Station 対話やライティングのコツ Daily Conversation 「買い物」や「レストラン」での表現</p>			
2	期末 考査 まで	<p>LESSON 7 Which is faster? LESSON 8 Great Inventions LESSON 9 Save the Earth LESSON 10 Masterpiece LESSON 11 My Future Job LESSON 12 World Heritage Gトレ 3,4 Lesson 7,8,9,10,11,12 Activity Station 3,4 Daily Conversation 3,4</p>		<p>[言語材料] 比較/助動詞/受動態/不定詞/動名詞</p> <p>[言語活動] 学校生活・日常生活についてインタビューや対話をする。スピーチをする。自分の意見・考えを書く。 リスニングを行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行う。リスニングを行う。</p> <p>Gトレ 3,4 文法事項復習 Activity Station プレゼンテーションやディスカッションのコツ Daily Conversation 「道案内」や「病気やケガ」の表現</p>			
3	学年末 考査 まで	<p>LESSON 13 Pictogram LESSON 14 Cool Japan LESSON 15 What's SDGs? Gトレ 5 Lesson 13,14,15 Activity Station 5</p>		<p>[言語材料] 分詞/関係代名詞/仮定法</p> <p>[言語活動] 学校生活・日常生活についてインタビューや対話をする。スピーチをする。自分の意見・考えを書く。 英文の情報を理解し、それに対する意見をまとめる。 リスニングを行う。</p> <p>Gトレ 5 文法事項復習 Activity Station デイバートのコツ</p>			
学習についての アドバイス	<p>教科書を通して基本的な文法事項を学習して身に付け、日常生活や学校生活における表現を理解し、話す力や書く力をつけていきます。AETと対話し、コミュニケーション力の向上を図ります。音声教材を使用し、聴く力もつけていきます。様々なことに興味をもち、自分の意見や考えを英語で表現し、多様で多角的に考えられることを期待しています。</p>						

教科名	家庭		担当者				
科目名	家庭総合						
履修学年	3	コース	全	必修・選択	必修	履修単位	2
使用教科書（出版社）	未来へつなぐ家庭総合365（教育図書）						
使用副教材（出版社）	最新生活ハンドブック（第一学習社）						
学習の到達目標	<p>1.人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらにかかわる技能を体験的・総合的に身につけるようにする。</p> <p>2.家庭や地域の生活課題を見出して、解決策を構想し、実践する。さらに自ら評価・改善し、考察したことを表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p> <p>3.様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p>						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	人間の発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深めている。生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。		家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身につけている。		さまざまな人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身につけている。		
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・ワークシート ・実技試験 ・レポート、自己評価 		<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・ワークシート、ノート ・発表、グループ活動 ・レポート、自己評価 ・教師による行動観察 		<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・ワークシート、ノート ・発表、グループ活動 ・レポート、自己評価 ・教師による行動観察 		
評価の重み	40		30		30		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査まで	子どもの生活と保育		<ul style="list-style-type: none"> ① 子どもはどう生まれ育つ？ ② 子どもとどうかわろう？ ③ これからの子育てとは？ 			
	期末考査まで	食生活と健康		<ul style="list-style-type: none"> ① なぜごはんを食べるの？ ② 私たちは何を食べているの？ 			
2	中間考査まで	食生活と健康		<ul style="list-style-type: none"> ① 安全に食べよう ② 健康に食べよう 			
	期末考査まで	食生活と健康		<ul style="list-style-type: none"> ① おいしく食べよう ② これからも食事を楽しむために 			
3	学年末考査まで	住生活と住環境		<ul style="list-style-type: none"> ① どのような家に住みたい？ ② 安全に住もう ③ 快適に住もう ④ 住まいの課題と未来の暮らし 			
学習についてのアドバイス	<p>人間の健全な発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解してください。</p> <p>将来を見通し、生活に必要な知識と技術を習得し、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践力をつけてほしいです。</p> <p>実験・実習は、事故防止のために説明をしっかりと聞き、道具や機械を正しく使用し、協力して行ってください。</p>						

教科名	商 業		担当者				
科目名	課題研究						
履修学年	3	コース	全	必修・選択	選択	履修単位	2
使用教科書（出版社）	なし						
使用副教材（出版社）	別途講座担当者より指示があります。						
学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題の設定、学習計画の立案、調査研究、作品制作等を行うことにより、自主的・継続的に学習する姿勢や探究的・創造的態度計画力、実践力、問題解決能力を身につけます。 ・今まで学んだ商業科の科目、普通科の科目で身につけた知識を課題研究に取り入れることにより、学習内容を総合的に活用する能力を身につけます。 						
評価の観点	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	各講座において自らが設定したテーマの内容に関する知識・技術の定着がしっかりできているか。		自らが設定した課題に対する考察や的確な判断および他者への発表ができているか。		計画的かつ積極的に調査研究や作品制作に取り組んでいるか。 グループで協力して課題に取り組んでいるか。		
評価の方法	確認テスト 作品制作		確認テスト 実習日誌・成果物等の提出状況		実習日誌・成果物等の提出状況 取り組み態度 グループ活動		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査 まで	課題の設定・学習計画の立案 課題に対する取り組み		各講座のテーマに合わせた研究課題を設定し、 調査研究、作品制作を行います。			
	期末考査 まで	課題に対する取り組み		調査研究、作品制作を行います。 適宜、講座内でのプレゼンテーションや講話、 フィールドワーク等を行っていきます。			
2	中間考査 まで	課題に対する取り組み		調査研究、作品制作を行います。 適宜、講座内でのプレゼンテーションや講話、 フィールドワーク等を行っていきます。			
	期末考査 まで	課題に対する取り組み		調査研究、作品制作を行います。 適宜、講座内でのプレゼンテーションや講話、 フィールドワーク等を行っていきます。			
3	学年末考査 まで	プレゼンテーション 研究報告書の作成		1年間の研究で各自が到達した内容をまとめた プレゼンテーションを実施します。 研究報告書を作成します。			
学習についての アドバイス		「知識・技術」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から評価を行います。課題研究には定期考査はありませんので、毎時間の授業への取り組み姿勢、提出物、研究内容の完成度等を評価の対象とします。					

教科名	商業		担当者				
科目名	課題研究(ビジネスアニメ)						
履修学年	3	コース	－	必修・選択	選択	履修単位	4
使用教科書(出版社)	なし						
使用副教材(出版社)	なし						
学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・企業、事業所の広報活動等で使用されるアニメーションについての知識や技術を学びます。 ・企業、事業所からの依頼をもとに、課題を解決するための調査・研究を行い、自主的・継続的に学習する姿勢や探究的・創造的態度を身につけます。 ・指定された期限までに作品を完成させるために必要な計画力・実践力・問題解決能力を身につけます。 ・今まで学んだ商業科の科目、普通科の科目で身につけた知識を課題研究に取り入れることにより、学習内容を総合的に活用する能力を身につけます。 ・課題研究を1年間学習する中で、忍耐強く物事に取り組む姿勢や問題を解決しようと努力するなど、より良い作品を作るためのベースとなるグロースマインドセットを身につけ、社会生活を営む上での「生きる力」を養います。 						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> ・企業、事業所の広報活動等で使用されるアニメーションについての知識や技術について理解できているか。 		<ul style="list-style-type: none"> ・企業、事業所からの依頼をもとに、課題を解決するための調査・研究について、自主的・継続的に学習し、仲間と協力して探究的・創造的にアイデアを出すことができているか。 		<ul style="list-style-type: none"> ・指定された期限までに作品を完成できるよう計画・実践し、振り返り、自己の取り組みや仲間との協力による取り組みをどう改善すればより良い作品が作れるのか、調整しようとしているか。 		
評価の方法	アニメーション基本練習作品 アニメーションの知識小テスト		アニメーション企業等実習作品 作品プレゼンテーション		グループワークにおける取り組み 各学期ごとの振り返り 課題研究日誌		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査 まで	<ul style="list-style-type: none"> ○ オリエンテーション ○ グロースマインドセットとは？ ○ アンコンシャスバイアスを知る ○ アニメーションの基本 ○ マスコットキャラクター作品制作 		<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容や評価方法、使用アプリケーションの登録や著作権について理解します。 ・より良い作品を作るためのグロースマインドセットについて学びます。 ・同じものを見ても、捉え方が異なることを実感し、今後の作品制作に生かすためのワークを行う。 ・アニメーションを作成するための基本的な知識・技術を身につけます。 ・学校や企業、事業所の広報に使用するマスコットキャラクターを作成します。また、それに必要な調査、研究活動を行います。 			
	期末考査 まで	<ul style="list-style-type: none"> ○ PRショートアニメ作品制作 1-1 ○ 1学期の振り返り・プレゼンテーション 		<ul style="list-style-type: none"> ・学校や企業、事業所の広報に関する動画を作成します。また、それに必要な調査、研究活動を行います。 ・自己の取り組みや仲間との協力による取り組みを振り返り、どう改善すればよいか考えます。 			
2	中間考査 まで	<ul style="list-style-type: none"> ○ PRショートアニメ作品制作 1-2 ○ PRショートアニメ作品制作 2-1 		<ul style="list-style-type: none"> ・PRショートアニメ作品制作1-1と同様です。 ・PRショートアニメ作品制作1とは別の事業所等を題材に作品制作を行います。 			
	期末考査 まで	<ul style="list-style-type: none"> ○ PRショートアニメ作品制作 2-2 ○ 2学期の振り返り・プレゼンテーション 		<ul style="list-style-type: none"> ・PRショートアニメ作品制作 2-1と同様です。 ・自己の取り組みや仲間との協力による取り組みを振り返り、どう改善すればよいか考えます。 			
3	学年末考査 まで	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年間の振り返り・プレゼンテーション ○ まとめ・研究報告書の作成 		<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションを行い、1年間の取り組みを振り返ります。 ・1年間の学習を振り返り、各自が到達した内容について研究報告書を作成し、目標に対する達成度を確認します。 			
学習についてのアドバイス	「知識・技術」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から評価を行います。課題研究には定期考査はありませんので、毎時間の授業への取り組み姿勢、提出物、研究内容の完成度等を評価の対象とします。自己の取り組みや仲間との協力による取り組みをどう改善すればより良い作品が作れるのかを自分に問いながら参加してください。						

教科名	商業		担当者				
科目名	デュアルシステム（観光）						
履修学年	3	コース	観光キャリア	必修・選択	選択	履修単位	6
使用教科書（出版社）							
使用副教材（出版社）							
学習の到達目標	<p>専門学校での学習により、専門的な内容を学び、観光に関わるさまざまな分野（ホテル、鉄道、エアライン、旅行業等）について知識を深める。また、ホテルや旅行会社等での就業体験を通じ、実務的な学習および体験を積むことで、仕事にすぐに活かすことのできる力を身につける。</p> <p>観光業の現状や抱えている課題について、主体的に学んだり、考えたりすることで、課題解決のために、必要な手段、アイデアを創出していくことのできる力を身につける。</p>						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<p>観光業のさまざまな分野における業務内容、心構え、必要な知識・技能を身に付けている。</p> <p>社会人として必要なビジネスマナーを身につけている。</p>		<p>観光業で働くために必要な技能について、自身にはどのような力が必要なのかを理解しようとしている。</p> <p>観光業が抱える課題について理解し、創造的に解決しようとしている。</p>		<p>観光業が抱える課題について、それを解決するために必要な手段、アイデアを創出するために主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p> <p>社会人として必要なビジネスマナーを主体的に身につけようとしている。</p>		
評価の方法	成果物・課題の提出 単元テスト・小テスト		成果物・課題の提出 単元テスト・小テスト		成果物・課題の提出 単元テスト・小テスト 実習への取り組み		
評価の重み	全体の40%		全体の30%		全体の30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間 検査 まで	<p>観光業界研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行分野、鉄道分野 <p>ビジネスマナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面接練習、身だしなみ、表情など <p>旅行業約款</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集型企画旅行、受注型企画旅行 		<p>求められる力、実務実習</p> <p>面接練習、言葉遣い等</p> <p>募集型企画旅行、受注型企画旅行の内容</p>			
	期末 検査 まで	<p>観光業界研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エアライン分野、ホテル分野 <p>ビジネスマナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面接練習、身だしなみ、表情など <p>旅行業約款</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手配旅行、旅程管理、旅程保証等 		<p>求められる力、実務実習</p> <p>面接練習、言葉遣い等</p> <p>手配旅行、旅程管理、旅程保証等</p>			
2	中間 検査 まで	<p>業界探究</p> <p>観光実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホテル就業体験 		<p>業界探究（さまざまな企業の事業内容、職種ごとの研究）</p> <p>接客の練習、その他、様々な業務を体験</p>			
	期末 検査 まで	<p>業界探究</p> <p>観光実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社体験または、鉄道会社就業体験 		<p>業界探究（さまざまな企業の事業内容、職種ごとの研究）</p> <p>接客の練習、その他、様々な業務を体験</p>			
3	学年末 検査 まで	<p>ビジネスマナー実習</p> <p>1年間のまとめ</p>		<p>言葉遣い、服装、礼儀に関する学習および実習</p> <p>社会人として必要な一般教養</p> <p>レポート作成、プレゼンテーション作成、発表</p>			
学習についての アドバイス	<p>専門学校で指導していただく先生方は、これまでに旅行会社や鉄道、航空会社等で働いていた経験豊富な先生方です。その分野に関する幅広い知識だけでなく、接客に必要な知識や態度、言葉遣い等について、詳しく実践的に教えていただくことができます。2学期には、ホテル等で実際に働く就業体験を行います。この1年間の学習により、社会で活躍できる人材となれるよう、学習、実習に取り組んでください。</p>						

教科名	商業		担当者				
科目名	課題研究(デュアルシステム美容)						
履修学年	3	コース	全	必修・選択	選択	履修単位	6
使用教科書(出版社)	なし						
使用副教材(出版社)	なし						
学習の到達目標	企業・専門学校と連携することで美容分野の専門性を高め、生徒の可能性をより引き出します。インターンシップを通じて接客の実践、理論の学習など学ぶことの楽しさを実感し、コミュニケーション能力と接客態度を身につけることを目標とします。						
評価の観点	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	理論・美容技術を理解し、実践できているか。 レポートにまとめているか。 発表会での発表ができていますか。		実習日誌・レポートの内容や提出状況、実習への意欲や態度、発表会への取り組みができていますか。		自らが設定した目標に対して積極的に実習に取り組んでいるか。 出席状況や実習態度、提出物の提出状況(期限と内容)。 発表会への取り組みができていますか。		
評価の方法	レポート 実習態度(接客) 発表会の完成度		実習日誌・レポートの提出状況 発表会に向けての取り組み		実習日誌・レポートの提出状況 出席状況・実習態度 発表会に向けての取り組み		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査まで	事前指導・見学 インターンシップ		1年間の授業のガイダンスを行います。 インターンシップの事前指導、施設見学、オリジナルシャンプー作りなど実務実習を行います。 サロンワーク			
	期末考査まで	インターンシップ		美容の歴史、皮膚・毛髪化学などの理論を学習します。ハンドマッサージの実務実習も行います。 サロンワーク			
2	中間考査まで	インターンシップ		ヘアアレンジなどの美容技術、ハンド・フットマッサージ施術、ヘアカラーやパーマ薬剤について学習します。 サロンワーク			
	期末考査まで	着付け ヘアメイク 発表会		和装を学びます。着付けの練習や柄や色のアレンジ方法、最終的には自ら考えた和装・ヘアアレンジ等を発表します。			
3	学年末考査まで	プレゼンテーション 1年間のまとめの作成		1年間の体験で各自が学んだ内容をまとめたプレゼンテーションを実施します。報告書も作成します。			
学習についてのアドバイス		「知識・技術」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から評価をおこないます。実習科目なので欠席・遅刻・早退等の出席状況と実習態度、提出物の提出状況等を評価の対象とします。					

教科名	商業		担当者				
科目名	総合実践						
履修学年	3	コース	全	必修・選択	必修	履修単位	3
使用教科書(出版社)	総合実践テキスト(本校が独自に作成したテキストを使用します)						
使用副教材(出版社)	マナーブック(高橋書店)・30日で誰でも自然に上達 美文字レッスン帖(ブティック社)・ これであなたもひとり立ち(金融広報中央委員会)						
学習の到達目標	商業の各分野に関する知識と技術を実践的活動を通して総合的に習得し、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に行う能力と態度を身につけることを目標とします。						
評価の観点	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	今まで学習した商業に関する知識と技術を一連の業務で実践的に学び、部分的であった理解を総合化できているか。ビジネスマナー(挨拶・正しい敬語の使い方)の習得ができているか。		定期考査に加え、課題の提出状況、実習への意欲や態度、税金の意義について取り組んでいるか。		積極的に協力して商店活動に取り組んでいるか、出席状況や実習態度、提出物の提出状況(期限と内容)。		
評価の方法	定期考査 マナー・取引書類		定期考査 実習日誌・書類等の提出状況 税の作文		実習日誌・書類等の提出状況 出席状況・実習態度・商店活動 ペン字練習		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査 まで	〈テキスト〉 第1章 学習上の心得 第2章 同時同業方式の取引 〈マナーブック〉 訪問・面談・来客時のマナー、文書作成 〈オフィスカジュアルについて考える〉		総合実践の目標などのガイダンスを行い、挨拶・正しい敬語の使い方など基本的なビジネスマナーを習得します。また、オフィスカジュアルについてグループワークをおこない、生徒間での学びが深まるようにします。			
	期末考査 まで	〈テキスト〉 第2章 同時同業方式の取引 〈マナーブック〉 手紙のマナー、電話のマナー 〈これであなたもひとり立ち〉		基本的な取引活動を理解し、仕入・販売・経理業務の実践的な学習をします。また、実務に活かせるようにペン字練習帳をすすめていきます。			
2	中間考査 まで	〈テキスト〉 第2章 同時同業方式の取引 第3章 模擬実践取引 〈マナーブック〉 ビジネスメールのマナー 〈これであなたもひとり立ち〉		同時同業取引の学習を終えてから、より実践的に取引市場を構成し、各商店・各機関に所属に分かれ業務を分担していきます。また、ひとり立ちのために必要な経済生活上の基礎知識を学習します。			
	期末考査 まで	〈テキスト〉 第3章 模擬実践取引 〈マナーブック〉 贈答、お付き合いのマナー 〈これであなたもひとり立ち〉		模擬実践取引を進めていきます。ひとり立ちの学習では、生活の収支や健康管理、インターネット取引の安全な利用法、悪質商法対策などの知識を身につけます。			
3	学年末考査 まで	〈テキスト〉 第3章 模擬実践取引 第4章 決算予備手続き 〈マナーブック〉 慶事・弔事のマナー 〈これであなたもひとり立ち〉		模擬実践取引を進めていきます。ビジネスマナーについて、これまで学習してきたまとめをします。また、確定申告書の書き方について学習します。			
学習についてのアドバイス		「知識・技術」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から評価をおこないます。実習科目なので欠席・遅刻・早退等の出席状況と実習態度、提出物の提出状況等を評価の対象とします。					

教科名	商 業		担当者				
科目名	商品開発と流通						
履修学年	3	コース	経済	必修・選択	必修	履修単位	3
使用教科書（出版社）	商品開発と流通（実教出版）						
使用副教材（出版社）	商品開発と流通 準拠問題集（実教出版）						
学習の到達目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、商品開発と流通に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 商品開発と流通について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 商品開発と流通に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、商品開発と流通に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>						
評価の観点	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	商品開発と流通について実務に即して体系的・系統的に理解し、商品の企画からプロモーションまでの様々な場面で役に立つ商品開発に関する知識と、流通の立場から捉えた取引対象としての商品に関する知識を身に付けている。		商品開発と流通をはじめとした様々な知識や情報などを活用し、商品開発と流通の動向や課題を発見するとともに、ビジネスに関わる様々な立場に立って、妥当性と課題などの視点から、科学的な根拠に基づいて商品開発と流通に関する計画を立案したり、提案したりしている。		ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら商品開発と流通について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、商品開発と流通に関する学習活動に責任をもって取り組もうとしている。		
評価の方法	定期考査・確認問題		ワークシート・課題レポート		ワークシート・課題レポート 各種実習		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	单元名	学習内容				
1	中間考査 まで	第1章 商品開発と流通の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活を送るために、商品は必要不可欠なものであり、それを入手するためには流通も重要であることを理解する。 ・『商品開発と流通』の概要を理解する。 ・商品の成り立ちおよびその捉え方について理解する。 ・商品開発の意義、新商品の捉え方、商品ライフサイクルについて理解する。 ・商品開発の手順について理解し、学習の見通しをたてる。 ・流通の仕組みについて、事例を調査して考察する。 ・市場環境とマーケティングの変化、流通チャネルの多様化について理解する。 				
	期末考査 まで	第2章 商品の企画	<ul style="list-style-type: none"> ・商品の企画に必要な環境分析について、企業における事例と関連付けて理解する。 ・商品開発の方針を策定し、標的市場を整理して開発する商品テーマを決定することを理解する。 				

			<ul style="list-style-type: none"> ・環境分析に基づいて、市場調査を行い、そこから商品の企画に関する課題を発見する。 ・商品コンセプトの内容について理解するとともに、ブレインストーミングなどの技法を用いて、商品企画につながるアイデアを考える活動を行う。 ・商品コンセプトを考察し、具体的に商品企画書の各項目をまとめる。 ・商品企画書を基にプレゼンテーションを行い、評価、改善を行う。
2	中間考査 まで	第3章 事業計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> ・商品開発と流通における事業計画について、その目的や手順について理解する。 ・競争環境や需要予測等に基づいた、価格の設定の考え方を理解する。 ・さまざまな価格政策について、企業における事例と関連付けて考察する。 ・流通チャネルの種類と特徴について理解する。 ・プロモーション計画について、企業における事例と関連付けて理解する。 ・事業の展開に必要な項目をまとめ、事業計画書を作成する。
	期末考査 まで	第4章 商品の開発 第5章 商品の販売	<ul style="list-style-type: none"> ・商品仕様と詳細設計について、企業における事例と関連付けて理解する。 ・プロトタイプの種類と目的について理解する。 ・プロトタイプを用いたテスト及び評価により、課題を明らかにすることを理解する。 ・商品デザインの役割や要素、種類等について理解する。 ・商品デザインの技法について、具体的な事例と関連付けて分析する。 ・販売員活動について、プロセス、役割等を理解する。 ・セールスプロモーションについて理解し、企業における具体的な事例と関連付けて分類する。
3	学年末考査 まで	第6章 商品開発と流通に関わる 新たな展開	<ul style="list-style-type: none"> ・顧客ニーズの多様化から、デザイン思考について企業における具体的な事例と関連付けて理解する。 ・流通の新たな展開として情報システムの変化が流通に影響を及ぼしていることを理解する。 ・感覚を活かしたプロモーション活動等を、企業における事例と関連付けて考察する。
学習についての アドバイス		これまでに学んだ「ビジネス基礎」や「マーケティング」の内容をより掘り下げて学んでいきます。教室での学習だけでなくさまざまな実習に対しても積極的に取り組む姿勢が大切です。	

教科名	商業		担当者				
科目名	(普商選択) 商品開発と流通						
履修学年	3年	コース	普商選択科目	必修・選択	選択	履修単位	2単位
使用教科書(出版社)	商品開発と流通(実教出版)						
使用副教材(出版社)	商品開発と流通準拠問題集(実教出版)						
学習の到達目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、商品開発と流通に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 商品開発と流通について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。</p> <p>(2) 商品開発と流通に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を育てる。</p> <p>(3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、商品開発と流通に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	商品開発と流通について実務に即して体系的・系統的に理解し、商品の企画からプロモーションまでの様々な場面で役に立つ商品開発に関する知識と、流通の立場から捉えた取引対象としての商品に関する知識を身につけている。		商品開発と流通をはじめとした様々な知識や情報などを活用し、商品開発と流通の動向や課題を発見するとともに、ビジネスに関わる様々な立場に立って、妥当性と課題などの視点から、科学的な根拠に基づいて商品開発と流通に関する計画を立案したり、提案したりしている。		ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら商品開発と流通について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、商品開発と流通に関する学習活動に責任をもって取り組もうとしている。		
評価の方法	定期考査 レポート		定期考査 レポート プレゼンテーション 実習課題への取り組み 発言・行動		定期考査 レポート プレゼンテーション 実習課題への取り組み 発言・行動		
評価の重み	全体の40%		全体の30%		全体の30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査 まで	<p>Introduction</p> <p>1 なぜ商品開発と流通は行われるのか？ 2 なぜ『商品開発と流通』を学ぶのか？</p> <p>1章 商品開発と流通の概要</p> <p>1 私たちの生活と商品 2 商品開発の意義と手順 3 商品と流通との関わり</p>		<p>日常生活を送るために、商品は必要不可欠なものであり、それを入手するためには流通も重要であることを理解する。</p> <p>『商品開発と流通』の概要を理解する。</p> <p>商品の成り立ちおよびその捉え方について理解する。</p> <p>商品開発の意義、新商品の捉え方、商品ライフサイクルについて理解する。</p> <p>商品開発の手順について理解し、学習の見通しをたてる。</p> <p>流通の仕組みについて、事例を調査して考察する。</p> <p>市場環境とマーケティングの変化、流通チャンネルの多様化について理解する。</p>			
	期末考査 まで	<p>2章 商品の企画</p> <p>1 環境分析と意思決定の準備 2 市場調査 3 商品コンセプトの策定 4 商品企画の提案</p> <p>実習課題「商品の企画」</p>		<p>商品の企画に必要な環境分析について、企業における事例と関連付けて理解する。</p> <p>商品開発の方針を策定し、標的市場を整理して開発する商品テーマを決定することを理解する。</p> <p>環境分析に基づいて、市場調査を行い、そこから商品の企画に関する課題を発見する。</p> <p>商品コンセプトの内容について理解するとともに、ブレインストーミングなどの技法を用いて、商品企画につながるアイデアを考える活動を行う。</p> <p>商品コンセプトを考察し、具体的に商品企画書の各項目をまとめる。</p> <p>商品企画書を基にプレゼンテーションを行い、評価、改善を行う。</p> <p>実習課題「商品の企画」に取り組む。</p>			

2	中間考査 まで	<p>3章 事業計画の立案</p> <p>1 事業計画の概要</p> <p>2 価格計画</p> <p>3 流通計画</p> <p>4 プロモーション計画</p> <p>5 事業計画書の作成</p> <p>実習課題「事業計画の立案」</p>	<p>商品開発と流通における事業計画について、その目的や手順について理解する。</p> <p>競争環境や需要予測等に基づいた、価格の設定の考え方を理解する。</p> <p>さまざまな価格政策について、企業における事例と関連付けて考察する。</p> <p>流通チャネルの種類と特徴について理解する。</p> <p>プロモーション計画について、企業における事例と関連付けて理解する。</p> <p>事業の展開に必要な項目をまとめ、事業計画書を作成する。</p> <p>作成した事業計画書を基にプレゼンテーションを行い、評価、改善を行う。</p>
	期末考査 まで	<p>4章 商品の開発</p> <p>1 商品仕様と詳細設計</p> <p>2 プロトタイプ</p> <p>3 商品とデザイン</p> <p>実習課題「パッケージをデザインする」</p> <p>実習課題「ポスターをデザインする」</p> <p>4 ブランド</p> <p>5 知的財産権の登録</p>	<p>商品仕様と詳細設計について、企業における事例と関連付けて理解する。</p> <p>プロトタイプの種類と目的について理解する。</p> <p>プロトタイプを用いたテスト及び評価により、課題を書きらかにすることを理解する。</p> <p>商品デザインの役割や要素、種類等について理解する。</p> <p>商品デザインの技法について、具体的な事例と関連付けて分析する。</p> <p>パッケージに必要な機能、要素等について考察し、パッケージデザインを行う。</p> <p>コンピュータを用いて、ポスターのデザインを行う。</p> <p>ブランドについて、機能、構成要素等を理解する。</p> <p>知的財産権の内容、重要性について理解する。</p> <p>偽ブランドや偽キャラクター商品等の知的財産権の侵害について、具体的な事例と関連付けて分析、考察する。</p>
3	学年末考査 まで	<p>5章 商品の販売</p> <p>1 販売員活動</p> <p>2 セールスプロモーション</p> <p>実習課題「商品の販売」</p>	<p>販売員活動について、プロセス、役割等を理解する。</p> <p>セールスプロモーションについて理解し、企業における具体的な事例と関連付けて分類する。</p> <p>実習に際して、流通とプロモーションに関する課題を発見する。</p> <p>実習のための計画を立案して実施し、評価・改善を行う。</p>
		<p>6章 商品と流通に関わる新たな展開</p> <p>1 商品開発の新たな展開</p> <p>2 流通の新たな展開</p> <p>3 感覚を活かした商品開発・流通</p>	<p>顧客ニーズの多様化から、デザイン思考について企業における具体的な事例と関連付けて理解する。</p> <p>流通の新たな展開として情報システムの変化が流通に影響を及ぼしていることを理解する。</p> <p>感覚を活かしたプロモーション活動等について企業における事例と関連付けて考察する。</p>
学習についての アドバイス		<p>この科目は「商品開発」と「流通」という大きく2つの学習要素があります。商品開発と流通がいかにして結びついているのか、多くの企業事例を収集・分析・考察することで、現実社会を見つめた学びになります。商品やサービスをそれぞれの視点からとらえ、いかにして日常生活のなかに存在しているのか考えることで、学びがより深まります。ささいな疑問から社会生活における課題を考え、商品開発と流通の役割について探究的に考えることを目指しましょう。</p>	

教科名	商業		担当者				
科目名	グローバル経済						
履修学年	3	コース	経済	必修・選択	選択	履修単位	2
使用教科書（出版社）	『グローバル経済』（東京法令出版）						
使用副教材（出版社）	『グローバル経済』準拠問題集（実教出版）						
学習の到達目標	<p>(1) 経済のグローバル化について実務に即して体系的・系統的に理解する。</p> <p>(2) 経済のグローバル化への対応に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、グローバル化する経済社会におけるビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	企業における経済のグローバル化への対応など実務と関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つ経済に関する知識が身に付いている。		経済のグローバル化をはじめとした様々な知識などを活用し、企業における経済のグローバル化への対応に関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、経済社会の動向、経済に関する理論やデータ、ビジネスに関する成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決することができる。		ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら経済について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識を持ち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、経済社会の動向を踏まえて経済のグローバル化に対応したビジネスの展開に責任をもって取り組んでいる。		
評価の方法	定期考査 単元テスト・小テスト		定期考査 単元テスト・小テスト ノート・レポート 発言・行動		単元テスト・小テスト ノート・レポート 発言・行動		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名			学習内容		
1	中間考査まで	第1章 経済のグローバル化と日本 ①グローバル化と国際化 ②日本経済の現状			・グローバル化と国際化の違い、欧州、アジア・太平洋地域などにおける地域経済の統合の現状、グローバル化の進展と経済成長との関係及び富の集中やタックス・ヘイブンなどの課題について扱い、地球規模で経済を俯瞰し、考察する学習活動をおこなう。 ・日本経済の現状について扱い、地球規模で経済を俯瞰し、日本経済を取り巻く環境、国際収支などに関連付けて考察する学習活動をおこなう。また、グローバル化が進展する中での日本の果たす役割について扱う。		

		<p>第2章 市場と経済 ①市場の役割と課題</p>	<p>・市場の役割について、価格決定や生産要素の配分の側面から扱う。また、価格決定の仕組み及び市場の課題について扱い、独占や寡占など具体的な事例と関連付けて分析し、考察する学習活動をおこなう。さらに、金融市場の概念及び公正な競争を実現するための政府の役割について扱う。</p>
	<p>期末考査 まで</p>	<p>第2章 市場と経済 ②経済成長 ③景気循環</p>	<p>・日本における経済成長の現状とその要因について扱い、経済指標の国際比較などを基に分析し、考察する学習活動をおこなう。また、国内総生産の概念及び日本の国内総生産の現状について扱う。</p> <p>・景気循環の局面と仕組み、景気循環を表す指標、日本における物価と景気の現状及び日本における物価と景気の変動の要因について扱う。また、インフレーションとデフレーションが経済社会に及ぼす影響について扱い、具体的な事例と関連付けて分析し、考察する学習活動をおこなう。</p>
<p>2</p>	<p>中間考査 まで</p>	<p>第2章 市場と経済 ④経済政策</p> <p>第3章 グローバル化の動向・課題 ①人材のグローバル化 ②財とサービスのグローバル化</p>	<p>・財政政策と金融政策の意義及び財政と中央銀行の役割について扱う。また、日本における財政政策と金融政策の現状・課題について扱い、具体的な事例と関連付けて分析し、考察する学習活動をおこなう。</p> <p>・ビジネスを担う人材が国境を越えて移動し、ビジネスが展開されているなど人材のグローバル化の動向とそれに伴う課題について扱い、経済社会における具体的な事例と関連付けて分析し、考察する学習活動をおこなう。また、経済のグローバル化が労働市場に影響を及ぼしている現状について扱い、経済社会における具体的な事例と関連付けて分析し、考察する学習活動をおこなう。</p> <p>・生産財、消費財及びサービスのグローバル化の動向とそれに伴う課題について扱い、経済社会における具体的な事例と関連付けて分析し、考察する学習活動をおこなう。また、貿易とその秩序を確保することの意義、比較優位による貿易の利益、自由貿易が経済に及ぼす影響及び貿易の秩序の確保や発展のための機関と協定について扱う。</p>

	<p>期末考査 まで</p>	<p>第3章 グローバル化の動向・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ③金融と資本のグローバル化 ④情報のグローバル化 	<ul style="list-style-type: none"> ・金融のグローバル化の動向とそれに伴う課題及び国際資本移動の現状・課題について扱い、経済社会における具体的な事例と関連付けて分析し、考察する学習活動をおこなう。 また、日本における金融と資本に関する課題について扱い、経済のグローバル化と関連付けて分析し、考察する学習活動をおこなう。 さらに、外国為替の仕組み、外国為替相場が変動する要因と貿易への影響、日本における外国為替相場の現状及び為替リスクに対する企業の対応策について扱う ・情報技術の進歩により、大量の情報が地球規模で行き交い、ビジネスに活用されているなど情報のグローバル化の動向とそれに伴う課題について扱い、経済社会における具体的な事例と関連付けて分析し、考察する学習活動をおこなう。
<p>3</p>	<p>学年末考査 まで</p>	<p>第4章 企業活動のグローバル化</p> <ul style="list-style-type: none"> ①企業の海外進出 ②グローバル化に伴う 企業の社会的責任 ③世界との関わり 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の海外進出の現状・課題について扱い、海外に進出している日本の企業の具体的な事例と関連付けて分析し、考察する学習活動をおこなう。 ・経済のグローバル化に伴って企業活動が日本にとどまらず経済社会に広く影響を及ぼしている現状及び企業活動に責任をもつことの重要性について扱い、具体的な事例と関連付けて分析し、考察する学習活動をおこなう。 ・企業が地球規模で経済を俯瞰し直接的、間接的に世界の市場と関わりをもってビジネスを展開していることについて扱い、具体的な事例と関連付けて分析し、考察する学習活動及び世界と関わりをもってビジネスを展開することを想定し、地域の資源をビジネスに役立てる方策などを考案するとともに、地域や産業界等に提案し、改善を図る学習活動をおこなう。また、ビジネスを展開する際にグローバル・スタンダードを踏まえることの意義と課題について扱い、具体的な事例と関連付けて分析し、考察する学習活動をおこなう。
<p>学習についての アドバイス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業経営・経済事象などをグローバルな観点から理解するために日頃から新聞やテレビ等のニュースを見ること。また日頃から様々な国際問題に興味を持つことが大切です。 ・グローバル経済の分野は常に変化をしています。常日ごろから興味や関心を持ち続 		

けることを心がけてください。

・授業開始のチャイムが鳴るまでに、授業に必要なものを準備して各自着席を完了し、授業がすぐに始められるようにしてください。

教科名	商業		担当者				
科目名	ビジネス法規						
履修学年	3	コース	会計キャリア	必修・選択	選択	履修単位	2
使用教科書（出版社）	ビジネス法規（実教出版）						
使用副教材（出版社）	ビジネス法規準拠問題集（実教出版）						
学習の到達目標	ビジネスに必要な法規に関する基本的な知識を習得し経済事象を法律的に考え、適切に判断して行動する能力と態度を育てる。						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	ビジネスに必要な法規に関する知識を習得し、法の意義や役割を理解できているか。また、具体的な事例に法律の条文をあてはめ、適切な結論を導き出すことができるか。		ある事象の解釈について、また条文についてなどの生成過程や立法の趣旨を論理的に思考し、どう判断しとらえることができるか。		法の知識、法的思考が生活上必須のことであることに関心を持ち、意欲的に学習しようとするか。		
評価の方法	・定期考査 ・小テスト		・定期考査 ・授業中の発言 ・教師による行動観察 ・問題集、提出物などの取組み		・授業中の発言 ・教師による行動観察 ・問題集、提出物などの取組み ・レポートの作成、発表		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査まで	第1章 経済社会と法		法の本質と体系 法の分類、効力、適用と解釈			
	期末考査まで	第2章 権利・義務と財産権		権利・義務の主体としての自然人について権利能力・行為能力という用語の理解を含め、自然人の能力と、制限行為能力者制度への理解			
2	中間考査まで	第3章 財産権と契約そしてその保護 第4章 企業活動に関する法		財産権の変動、権利の発生・変更・消滅、消費貸借・賃貸借 金銭の消費貸借において、利息制限法と出資法 営業自由の原則 株式会社の機関の機能と各機関相互の関連			
	期末考査まで	第5章 取引に関する法		債務不履行の3つの態様について学習 手形・小切手について法律上の要件と制度 手形行為・小切手行為の概念 約束手形の書画性・様式性の理解			
3	学年末考査まで	第6章 企業の責任と法		企業に対して社会的責任を負わせるなど新しい法令遵守 企業統治や内部統制、不正行為防止の仕組み			
学習についてのアドバイス		法の基礎的などころから解説します。専門的な用語や法固有の考え方が多く出てくるため、授業をしっかりと聞き、ノートにまとめることが大切です。用語を暗記するだけでなく、それぞれの事例に応じてどのような法が適用されるかを考える事が大切です					

教科名	商業		担当者				
科目名	財務会計Ⅱ						
履修学年	3	コース	会計キャリア	必修・選択	必修	履修単位	3
使用教科書（出版社）	財務会計Ⅱ（実教出版）						
使用副教材（出版社）	財務会計Ⅱ準拠問題集（実教出版）						
学習の到達目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2)企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業及び企業の経営判断を分析する力を養う。</p> <p>(3)会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、国際的な会計基準を踏まえた適切な会計情報の提供と効果的な活用主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。</p>						
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	財務会計に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つ実務に即した知識と技術を身に付けている。	唯一絶対の答えのないことの多い経済社会にあつて、財務会計をはじめとした様々な知識、技術などを活用し、企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と実務に適用することに伴う課題を見だすとともに、会計情報が社会に及ぼす影響を踏まえ、財務会計に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく課題に対応する力、財務指標を組み合わせて企業の 実態 を 総合的に分析する力及び経営判断が企業に及ぼす影響を会計的側面から分析する 力を養うことができている。		会計責任を果たす力の向上を目指して自ら財務会計について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、国際的な会計基準を踏まえた企業集団の会計処理などによる会計情報の提供と効果的な活用により責任をもって取り組む態度を養うことができている。			
評価の方法	定期考査 単元テスト・小テスト	定期考査 単元テスト・小テスト、ワークシート、発言・行動		単元テスト・小テスト ワークシート、発言・行動			
評価の重み	全体の40%	全体の30%		全体の30%			
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査 まで	第1章 財務会計の基本概念 第2章 資産負債アプローチと 収益費用アプローチ 第3章 会計基準の国際的統合		「財務報告の目的」「財務諸表の構成要素」「財務諸表の構成要素の認識と測定」 「資産負債アプローチと収益費用アプローチの意味」「資産負債アプローチ・収益費用アプローチと利益計算」 「わが国の会計基準」「会計基準の国際的統合」「わが国の会計基準の特徴と国際会計基準への対応」「資産の評価基準」「資産の評価方法」「減損の会計処理」			
	期末考査 まで	第5章 負債会計 第6章 純資産会計 第7章 損益会計 第8章 リース会計		「負債の意味と評価」「社債」「退職給付引当金」「資産除去債務」 「純資産の意味と分類」「新株予約権」「分配可能額の計算」「株主資本等変動計算書」 「収益と費用」「損益計算の基準」「商品販売の形態と会計処理」「工事契約」 「リース取引の意味と分類」「ファイナンス・リース取引の借手の会計処理」「オペレーティング・リース取引の借手の会計処理」「ファイナンス・リース取引の貸手の会計処理」			
2	中間考査 まで	第9章 税効果会計 第10章 外貨換算会計 第11章 キャッシュ・フロー計算書		「利益と課税所得」「税効果会計の意味」「一時差異と繰延税金資産・負債」 「外貨建取引の意義」「為替換算と為替差損益」「外貨建取引の基本的な会計処理」「外貨建項目の決算時の会計処理」「為替予約」 「キャッシュ・フロー計算書の意義と必要性」「キャッシュ・フロー計算書の表示区分」「キャッシュ・フローの表示方法」「キャッシュ・フロー計算書の作成手続き」「直接法によるキャッシュ・フロー計算書の作成例」「間接法によるキャッシュ・フロー計算書の作成例」			
	期末考査 まで	第12章 企業結合会計 第13章 連結財務諸表の作成（その1） 第14章 連結財務諸表の作成（その2） 第15章 持分法		「企業結合会計の意味」「合併会計」 「連結財務諸表の目的と連結の範囲」「連結決算の手続き」「支配獲得日における連結貸借対照表の作成」「支配獲得日後における連結財務諸表の作成」 「支配獲得までの段階取得」「支配獲得後における子会社株式の取得」 「子会社株式の一部売却」「連結財務諸表の作成」 「持分法の意義」「持分法の適用対象」「持分法の会計処理」			
3	学年末考査 まで	第16章 連結税効果会計 第17章 財務諸表の活用 第18章 監査と職業会計人		「連結税効果会計の意義」「評価差額に係る税効果会計」「未実現利益に係る税効果会計」「債権・債務の相殺消去に係る税効果会計」 「企業グループの現状把握」「株価の判断材料」「企業価値の評価」 「二つの法律と監査のしくみ」「財務諸表監査の目的とリスク・アプローチ」「監査のプロセスと監査手続」「監査意見と監査報告書」「監査の品質管理」「職業会計人の社会的役割と倫理」			
学習についての アドバイス	実践的な会計処理について学んでいきます。従って今までよりも、会計処理についてその都度、適切な判断をすることが多くなります。授業で説明を聞いて納得するだけでなく、常に疑問を持ち、自分で考え判断する能力を身につけましょう。						

教科名	商業		担当者				
科目名	ソフトウェア活用						
履修学年	3	コース	全	必修・選択	選択	履修単位	2
使用教科書（出版社）	ソフトウェア活用（実教出版）						
使用副教材（出版社）	よくわかるマスター MOS Excel 365&2019 Expert 対策テキスト&問題集（FOM出版）						
学習の到達目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を育成することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 2. 企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 3. 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。		企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。		企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（筆記・実技） ・小テスト（単元、課題等） ・実習課題 		<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（筆記・実技） ・小テスト（単元、課題等） ・実習課題 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言 ・教師による行動観察 ・問題集、提出物などの取り組み ・レポートの作成、発表 		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査まで	1章 企業活動とソフトウェア活用 2章 情報通信ネットワークの活用		1. ビジネスにおけるソフトウェアの活用 1. 情報通信ネットワークの導入と運用			
	期末考査まで	3章 表計算ソフトウェアの活用その1		1. 表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析 2. 表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズ・リサーチ			
2	中間考査まで	3章 表計算ソフトウェアの活用その2		MOS EXCEL EXPERT 学習			
	期末考査まで	3章 表計算ソフトウェアの活用その3		MOS EXCEL EXPERT 演習			
3	学年末考査まで	4章 データベースソフトウェアの活用		4. データベースの構造 5. SQLの操作			
学習についてのアドバイス	<p>パソコン、スマートフォン、タブレット等で使用される便利なアプリケーションソフト。中でもビジネスに使用されるソフトウェアは、「使えて当たり前」とされるまでに社会に浸透しています。大量の情報を早く・正確に処理し、分析する力を身につけておくことが、今後の社会で活躍するための大切な力となります。この授業を通じて、「パソコンを活用するのはお手の物」となれるよう頑張ってください。</p>						

教科名	商業		担当者				
科目名	ネットワーク活用						
履修学年	3	コース	全	必修・選択	選択	履修単位	2
使用教科書（出版社）	ネットワーク活用（実教出版）						
使用副教材（出版社）							
学習の到達目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を育成することを目指す。とりわけ、ビジネスにおけるインターネットの活用に必要な資質・能力を育成することを目指す。						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	ビジネスにおけるインターネットの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を		ビジネスにおいてインターネットを活用することに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。		企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるインターネットの活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査（筆記・実技） 小テスト（単元、課題等） 実習課題 		<ul style="list-style-type: none"> 定期考査（筆記・実技） 小テスト（単元、課題等） 実習課題 		<ul style="list-style-type: none"> 授業中の発言 教師による行動観察 問題集、提出物などの取組み レポートの作成、発表 		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査まで	1章 情報通信技術の進歩とビジネス 1 2章 情報コンテンツの制作 1		1. ICTにより創造される新しいビジネス 1. 図形と静止画			
	期末考査まで	1章 情報通信技術の進歩とビジネス 2 2章 情報コンテンツの制作 2		2. 関連法規とガイドライン 2. 音声と動画			
2	中間考査まで	3章 企業情報の発信と Web デザイン 1		1. ウェブページ制作 1 (HTMLの基礎)			
	期末考査まで	3章 企業情報の発信と Web デザイン 2		1. ウェブページ制作 2 (HTMLの基礎)			
3	学年末考査まで	4章 インターネットとセキュリティ 5章 電子商取引とビジネス		1. インターネットの仕組み 1. 電子決済とビジネス			
学習についてのアドバイス		パソコンやスマートフォンを含め、常時インターネットと接続されている状況が当たり前になった現代。とりわけビジネスシーンについて、その仕組みを知り、積極的にネットワークを活用し、社会生活に役立てられることが求められる。日常的にスマホアプリや最新の情報関連ニュースに目を配るなど、興味や関心をもって臨むことが良いだろう。					

教科名	商業		担当者				
科目名	観光基礎						
履修学年	3	コース	観光以外	必修・選択	選択	履修単位	2
使用教科書(出版社)							
使用副教材(出版社)	日本の宿 おもてなし検定 基礎(JTB 総合研究所)						
学習の到達目標	観光とは何か、観光産業とはどのような産業か、観光の特性は何か、といった基本的な事柄についての知識を身に付け、地域資源の活用方法について考える。						
評価の観点	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	観光に関する基礎的な知識を身に付けているか。おもてなしの基礎的な知識と接客マナーを身に付けているか。		観光に関する諸課題を発見して、課題解決を目指して考えを深めることができるか。旅の目的に合致した旅行のプランニングができるか。		観光資源や地域の課題等について主体的に調査しているか。研修旅行に参加して、自分たちが学んだことを確かめることができるか。		
評価の方法	・定期考査 ・小テスト ・課題提出		・定期考査 ・レポートの提出・発表		・定期考査 ・課題提出 ・授業中の発言 ・教師による行動観察		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査まで	○愛知県の観光資源		自分たちが住む地域の魅力的な資源について調査し、発表し合う。地域の魅力や、地域が抱える問題について考える。			
	期末考査まで	○東海地方の観光資源		自分たちが住む近隣地域の魅力的な資源について調査し、発表し合う。地域の魅力や、地域が抱える問題について考える。			
2	中間考査まで	○関西・中国地方の観光資源		他の地域の観光資源について調査する。修学旅行の自由散策のモデルコースを作成し、発表し合う。			
	期末考査まで	○旅行プランニング		旅行プランニングについての基礎を学ぶ。東海地方への日帰り旅行をプランニングして、実際に検証する。			
3	学年末考査まで	○まとめ		旅行プランニングの報告書を作成し、発表する。観光ビジネスの諸課題について考え、課題解決の方法について話し合う。			
学習についてのアドバイス		観光には色々な形があり、時代とともに多様化しています。地域資源を価値の高い観光商品にするためにはどのような工夫が必要か、地域を元気にする方法には何があるか考えて前向きに学習しましょう。					

教科名	商業		担当者				
科目名	観光実務						
履修学年	3	コース	観光	必修・選択	必修	履修単位	3
使用教科書（出版社）							
使用副教材（出版社）	日本の宿 おもてなし検定 応用（JTB総合研究所）						
学習の到達目標	2年次に学習した「観光基礎」を踏まえて、観光業務業界について学習し、観光に関する実務的な知識と技術を身につけることを目標とする。						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	観光実務に関する基礎的な知識を身につけている。おもてなしの実務的な知識と接遇マナーを身につけている。		観光に関する諸課題を発見して、課題の解決に向かうことができる。旅の目的に合致した旅行をプランニングできる。		観光について主体的に調査し、理解しようとして課題を意欲的に追及している。研修旅行に参加して、課題を発見し、解決策を考察できる。		
評価の方法	・定期考査 ・レポートの提出・発表		・定期考査 ・レポートの提出・発表		・定期考査 ・レポートの提出・発表		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査まで	国内観光地理 国内観光業務		国内旅行業務に必要な知識を実務を身につける。 旅行業法、運賃計算、観光地理等について理解を深める。			
	期末考査まで	「おもてなし」の実務 旅行プランニング		2年次に学習した基礎知識をベースとして、現場管理者レベルの「おもてなし中級」の知識を身につける。 旅行プランを作成してプレゼンする。			
2	中間考査まで	「おもてなし」まとめ 日本の文化・伝統		「おもてなし検定」を通して、学習の到達度を確認する。 研修旅行に備えて、日本の文化・伝統を調査、学習し、日本の観光に魅力について考える。			
	期末考査まで	研修旅行の準備		研修旅行の旅行プランをもとめ、事前学習を行う。 海外のお客様との交流について学ぶ。			
3	学年末考査まで	研修旅行のまとめ 海外観光地理、異文化理解		研修旅行報告書の作成、発表 出入国手続きや時差計算、海外観光地理の学習。 異文化を知り、多様な価値観を受容することの大切さを学ぶ。			
学習についてのアドバイス		2年次に学習した内容を生かし、旅行プランニングや研修旅行を通して観光業や旅行業の仕事に実際に触れましょう。また、そこで自分の将来についても考えましょう。					

教科名	商業		担当者				
科目名	旅行業務						
履修学年	3	コース	観光	必修・選択	選択	履修単位	2
使用教科書（出版社）							
使用副教材（出版社）							
学習の到達目標	2年次に学習した「観光基礎」を踏まえて、国内旅行業務について学習し、国内旅行業務の知識・技術を養います。						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	観光業のさまざまな分野における業務内容、心構え、必要な知識・技能を身に付けている。社会人として必要なビジネスマナーを身に付けている。		観光業で働くために必要な技能について、自身にはどのような力が必要なのかを理解しようとしている。観光業が抱える課題について理解し、創造的に解決しようとしている。		観光業が抱える課題について、それを解決するために必要な手段、アイデアを創出するために主体的かつ協働的に取り組もうとしている。社会人として必要なビジネスマナーを主体的に身につけようとしている。		
評価の方法	・定期考査 ・レポートの提出・発表		・定期考査 ・レポートの提出・発表		・定期考査 ・レポートの提出・発表		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査まで	旅行業法・約款		人々が安全・安心に旅行をするための、法令や約款を学ぶ。			
	期末考査まで	運賃料金計算・宿泊料計算		旅行をする上での様々な交通手段の運賃料金や宿泊料の計算方法を学ぶ。			
2	中間考査まで	国内観光地理		地域における観光関連産業の発達、観光地化にともなう生活や文化の変容、観光活動が地域に与える影響などについて学ぶ。			
	期末考査まで	世界遺産		日本にはどんな世界遺産があるのか。また、観光地としての価値が高まり、経済効果、保護するための取り組みなどを学ぶ。			
3	学年末考査まで	国内旅行業務		国内旅行における旅行業務・旅行手配の管理・監督について学ぶ。			
学習についてのアドバイス	2年次に学習した内容を生かし、より発展的に観光について学びましょう。また、国家試験である旅行業務取扱管理者試験の内容にも触れ、高度な知識を深めましょう。						

教科名	商業		担当者				
科目名	デザイン基礎						
履修学年	3	コース	デザイン以外	必修・選択	選択	履修単位	2
使用教科書（出版社）	なし						
使用副教材（出版社）	最短合格！色彩検定出る順テキスト&問題集 3級（ナツメ社） CGリテラシーPhotoshop&Illustrator（実教出版）						
学習の到達目標	デザインの基礎となる色彩についての知識を高め、作品制作に効果的に生かせるようになることを目指します。また、色彩についての知識を生かしたコンピュータグラフィックス作品が作成できることを目指します。						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	・色彩に関する基礎的な知識を理解している。 ・コンピュータグラフィックスに関する基礎的な知識・技術を身に付けている。		実習課題において、課題の目的や意味を考え、構図や配色、表現を工夫して作品制作をすることができる。		商業デザインに関して広く関心を持ち、よりよい作品制作につながるよう主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
評価の方法	・定期考査 ・実習課題		・定期考査 ・実習課題 ・振り返りシート ・授業態度（発言等）		・実習課題 ・振り返りシート ・授業態度（発言等）		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査まで	○色彩について ○コンピュータグラフィックスについて		・色のはたらき、光と色について ・コンピュータグラフィックスの概要			
	期末考査まで	○色彩について ○コンピュータグラフィックスについて		・色相環と色彩体系について ・Photoshopの基本操作			
2	中間考査まで	○色彩について ○コンピュータグラフィックスについて		・色彩心理、配色について ・Photoshopの基本操作			
	期末考査まで	○色彩について ○コンピュータグラフィックスについて		・配色イメージについて ・ファッション・インテリアと色彩 ・Photoshopを利用した作品制作			
3	学年末考査まで	○コンピュータグラフィックスについて		・Photoshopを利用した作品制作			
学習についてのアドバイス		色彩の分野では身近な例を挙げながら進めていきますので、日常生活でも「色」を意識してみると良いでしょう。コンピュータグラフィックスの分野では、地道な努力と、明確な作品イメージを持つことが大切です。特に主体的・創造的に取り組むことを期待します。					

教科名	商業		担当者				
科目名	デザイン応用						
履修学年	3年	コース	デザインキャリア	必修・選択	選択	履修単位	3単位
使用教科書（出版社）	なし						
使用副教材（出版社）	書体サンプル集（国際文化カレッジ）						
学習の到達目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、デザインに関する応用的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> デザインについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する応用的な技術を身に付けるようにする。 社会生活や経済活動に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者としてデザインの視点から創造的に解決する力を養う。 デザインに関する知識・技術や課題解決力を生かし、より良い社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	デザインについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する応用的な技術を身につけている。		社会生活や経済活動に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者としてデザインの視点から創造的に課題を解決しようとしている。		デザインに関する知識・技術や課題解決力を生かし、より良い社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。		
評価の方法	定期考査 実習課題・実習作品		定期考査 実習課題・実習作品 発言・行動		定期考査 実習課題・実習作品 発言・行動		
評価の重み	全体の40%		全体の30%		全体の30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査 まで	Introduction レタリング		<p>応用的なデザインとは何かについて考え、デザインを学ぶ意義を理解する。</p> <p>文字の骨格のレタリングについて知識と理論を学び、技法を実習する。</p> <p>和文書体のレタリングについて知識と理論を学び、技法を実習する。</p> <p>欧文書体のレタリングについて知識と理論を学び、技法を実習する。</p> <p>フリーハンドによる字体の視写について知識と理論を学び、技法を実習する。</p> <p>実際のロゴタイプやロゴマークなどを見本とし、レタリングの技術を高める。</p>			
	期末考査 まで	ロゴデザイン ポスターデザイン		<p>企業・団体・イベント等で使用されるロゴのデザインをコンピュータ・グラフィックにより制作し、実践的に学ぶ。</p> <p>企業・団体・イベント等で使用されるポスターのデザインをコンピュータ・グラフィックにより制作し、実践的に学ぶ。</p>			

2	中間考査 まで	和紙の灯り	<p>「和紙の灯り」とは何か、過去の作品や和紙の特徴、光の見え方などから知り、作品制作の意義を学ぶ。</p> <p>「和紙の灯り」を制作するにあたり、デザインを構想し、イメージスケッチを描く。</p> <p>12面体、20面体などの立体から、自分が制作したいランプシェードの形状を決める。</p> <p>ボール紙を用いて展開図を切り抜き、仮組をして立体の形状となるか確認する。</p> <p>ボール紙に自分がイメージするデザインを下書きし、カッターなどで切り抜く。</p> <p>切り抜いたところに和紙を貼り、デザインを完成させる。</p> <p>組み立てて内部に電球を入れて灯し、鑑賞する。</p>
	期末考査 まで		
3	学年末考査 まで	サンドブラスト絵皿	<p>絵皿のデザインを構想し、イメージスケッチを描く。</p> <p>ガラスの絵皿にサンドブラスト用の保護フィルムを貼る。</p> <p>フィルムの上にデザインを下書きする。もしくはトレースダウンによりデザインを写す。</p> <p>フィルムに描かれたデザインにそってデザインカッターなどで切り抜く。</p> <p>サンドブラストマシンを使用し、デザインの模様をつける。</p> <p>完成した作品を鑑賞する。</p>
学習についての アドバイス		<p>デザイン応用の授業のなかで取り組む作品課題は、完成させて自分が納得する作品というだけでなく、その作品をみた他者がどう受け止めるのか、という視点も重要となります。つまり、自分が満足する作品ということではなく、デザインの依頼主がどのような作品を期待しているのか、という視点で課題をとらえる力が求められます。依頼主が何を望んでいるのか、どのようなことを期待しているのか、また解決したいと思っている問題は何か、様々な情報から探っていく必要があります。デザインには、誰かの生活を豊かにするという役割があることを意識し、デザインが解決できる社会生活の課題を探究的に考えることを目指しましょう。</p> <p>この授業では実習課題や作品制作がとても多くあります。なかには一つの作品を長期間にわたって取り組む課題もあるため、作品完成までの見通しを立てた取り組み方が大切となります。作品に取り組める授業時間は何時間あるのか、作品完成までにどのような作業が必要か、一日の授業で進められる作業は自分だとの程度か、今の作業が完了したら次に必要な作業は何か、といった「段取り」が組み立てられる力を伸ばしていけるといいですね。</p>	

教科名	商業		担当者				
科目名	コンピュータグラフィックス						
履修学年	3	コース	デザイン	必修・選択	選択	履修単位	2
使用教科書（出版社）	なし						
使用副教材（出版社）	CGリテラシー Photoshop & Illustrator（実教出版）						
学習の到達目標	<p>フォトタッチ系ソフトの「Photoshop」の基本操作を学習し、作品制作を行います。</p> <p>ドロー系ソフトの「Illustrator」の基本操作を学習し、作品制作を行います。</p> <p>上記の両グラフィックソフトを使用して、卒業作品を制作します。</p>						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータグラフィックスに関する基礎的・応用的な知識・技術を身に付けている。 		<ul style="list-style-type: none"> 実習課題において、課題の目的や意味を考え、構図や配色・表現を工夫して作品制作をすることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 商業デザインに関して、広く関心を持ち、よりよい作品制作につながるよう主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 		
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査・実習課題 		<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 実習課題 振り返りシート 授業態度（発言等） 		<ul style="list-style-type: none"> 実習課題 振り返りシート 授業態度（発言等） 		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査まで	<ul style="list-style-type: none"> Photoshop について Illustrator について 		<ul style="list-style-type: none"> Photoshop の機能・ツールについて フォトタッチについて Illustrator の機能・ツールについて 			
	期末考査まで	<ul style="list-style-type: none"> Photoshop および Illustrator を使用したポスター制作（実務総合競技大会作品制作） 		<ul style="list-style-type: none"> 2つのアプリケーションを使用した作品制作について 			
2	中間考査まで	<ul style="list-style-type: none"> 作品制作①「卒業アルバム表紙デザイン」 		<ul style="list-style-type: none"> 印刷物におけるデザインについて 			
	期末考査まで	<ul style="list-style-type: none"> 作品制作②「卒業課題作品」 		<ul style="list-style-type: none"> これまでの進捗などに合わせてテーマを決定し、作品制作を行います。 			
3	学年末考査まで	<ul style="list-style-type: none"> 作品制作②「卒業課題作品」 		<ul style="list-style-type: none"> これまでの進捗などに合わせてテーマを決定し、作品制作を行います。 			
学習についてのアドバイス		<p>Photoshop と Illustrator という異なったタイプのグラフィックソフトを使用しますので、違いをしっかりと理解しすることが重要です。学習したことを有効に活用することで、より質の高い作品制作につながります。課題の指示をよく理解し、提出期限や条件を守ることが大切になります。また、授業時間を有効に使用するために、作品ごとにラフスケッチをしっかりと作り、イメージを固めてから制作にあたると良いでしょう。</p>					

教科名	商業		担当者				
科目名	ITスキル						
履修学年	3	コース	情報	必修・選択	必修	履修単位	3
使用教科書（出版社）							
使用副教材（出版社）	いちばんやさしいITパスポート 絶対合格の教科書+出る順問題集（SBクリエイティブ）						
学習の到達目標	2年次まで学習した情報キャリアコースの内容に加え、より高度な知識や技術を学びます。取り合わせ、ビジネスシーンで活用できる技術を学びます。また、国家資格であるITパスポート試験に必要な知識を学び、資格にチャレンジできる能力を習得することを目標とします。						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	ビジネスにおけるIT技術の基礎や知識を実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。		ビジネスにおけるIT技術の活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。		企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるITの活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査（筆記・実技） 小テスト（単元、課題等） 実習課題 		<ul style="list-style-type: none"> 定期考査（筆記・実技） 小テスト（単元、課題等） 実習課題 		<ul style="list-style-type: none"> 授業中の発言 教師による行動観察 問題集、提出物などの取組み レポートの作成、発表 		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	中間考査まで	1. テクノロジ系：基礎理論 <ul style="list-style-type: none"> 数と表現 確率と統計 データの構造とアルゴリズム 		ITパスポートに準拠したテクノロジ系の領域を中心にコンピュータ内部での情報の表現について学習します。			
	期末考査まで	2. テクノロジ系：システム開発 <ul style="list-style-type: none"> システムの構成 システムの稼働率 ビジネスアプリ 		ITパスポートに準拠したテクノロジ系の領域を中心にシステムの構成やビジネスアプリの使い方や活用方法について学習します。			
2	中間考査まで	3. ストラテジ系：経営 <ul style="list-style-type: none"> 組織論 業務分析 データ利活用 		ITパスポートに準拠したストラテジ系の領域を中心に組織論をはじめビジネススキルについて学習します			
	期末考査まで	4. ストラテジ系：法務、経営戦略 <ul style="list-style-type: none"> 知的財産権 各種法規（セキュリティ、労務等） 経営戦略手法 		ITパスポートに準拠したストラテジ系の領域を中心に法務や経営戦略を中心に、引き続きビジネススキルについて学習します			
3	学年末考査まで	5. マネジメント系；各種開発技術 <ul style="list-style-type: none"> システム開発プロセス ソフトウェア開発プロセス プロジェクトマネジメント サービスサポート 		ITパスポートに準拠したストラテジ系の領域を中心に開発関係の知識を中心に、プロジェクトマネジメントに関する知識や技術について学習します			
学習についてのアドバイス	情報キャリアコースに設定されている資格取得の中で、最も高度なITパスポート試験に準ずる内容で学習が進みます。覚える知識の量が多いので、毎時間の積極的な取り組みはもちろん、授業時間外での自主的な学習が求められます。専門的かつ実学的な能力も育成される内容なので、積極的に参加するとよいでしょう。						

教科名	商業		担当者				
科目名	ビジネス会計						
履修学年	3	コース	経・情・デ・観	必修・選択	選択	履修単位	2
使用教科書（出版社）	なし						
使用副教材（出版社）	なし						
学習の到達目標	これまでに習得した簿記会計の知識・技術を活用して、決算書から企業の収益構造や経営戦略を読み解き、様々なビジネスモデルを理解できるようになる。						
評価の観点	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	決算書の意義や見方を理解しており、適切な財務指標分析が行える知識と技術を持っている。		決算書から企業のビジネスモデルや収益構造を読み取り、原因分析や対応策を科学的根拠に基づいて考えている。		決算書を活用する意欲があり、その知識・技術を習得するために自ら責任を持って学ぶ態度を持っている。		
評価の方法	定期考査 単元テスト・小テスト		定期考査 単元テスト・小テスト ノート・レポート 発言・行動		定期考査 単元テスト・小テスト ノート・レポート 発言・行動		
評価の重み	40%		30%		30%		
学期	時期	単元名		学習内容			
1	期末考査 まで	<ul style="list-style-type: none"> ・決算書の意義 ・同業他社比較 		<p>3つの決算書（損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書）がそれぞれどのような役割を持っていて、どのように関係しているかを学ぶ。</p> <p>決算書の数字から様々な財務指標を求め、デュポン分析を中心に同業他社比較をすることで企業の力を分析する方法を学ぶ。</p>			
2	期末考査 まで	<ul style="list-style-type: none"> ・企業価値評価 ・管理会計 		<p>企業価値の算定方法を大きく3種類学び、投資家の視点で財務諸表を分析する。</p> <p>損益分岐点や投下資本を分析することで、会計を経営に活用する方法を学ぶ。</p>			
3	学年末考査 まで	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討 		<p>様々な事例から成功や失敗の原因を分析して読み解き、どのように活用するかを学ぶ。</p>			
学習についてのアドバイス		起業や投資などビジネスに関心を持って取り組むと良いでしょう。					

教科名	総合的な探究の時間		担当者	第3学年担任・副担任			
科目名	キャリア探究Ⅲ						
履修学年	3年	コース	全	必修・選択	必修	履修単位	1
使用教科書（出版社）							
使用副教材（出版社）							
学習の到達目標	探究の見方・考え方を働かせ、地域や産業、職業に関わる総合的な学習を通して、予測困難な時代の中での自己の在り方生き方を考え、産業人として必要な以下の資質を養う。						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	社会課題について関心を持ち、社会に貢献できることはないか対話するための問いを立てたり、考えるための資料を収集したりすることなどを通じて自己と社会をつなげるための知識を身につける。		対話探究で学んだ問いの深め方や社会探究のための資料収集で得た知識などを活用して、社会課題を自分事と捉え、表現することができる。		対話探究や社会探究の中で、他者の意見を尊重しながら聴き、自分の考えを述べながら、仲間と共に探究活動や社会課題に取り組み、より良くするために自分にできることは何か考えようとしている。		
評価の方法	ワークシート、提出物、発言、行動等を総合的に評価						
学期	単元名		学習内容				
1	・ガイダンス		<ul style="list-style-type: none"> ・1年間でどのように学ぶか理解する。 ・デモンストレーションを見て、問いの立て方や哲学対話の方法を学ぶ。 				
	・対話探究		<ul style="list-style-type: none"> ・設定されたテーマからできるだけたくさんの問いを立ててみる。 ・「問う、考える、語る、聞く」ことについて、仲間と共に哲学対話を通じて学ぶ 				
2	・振り返り		<ul style="list-style-type: none"> ・これまでを振り返り、今後の探究の時間の取り組みをより良くしていくために何ができるか考える。 				
	<ul style="list-style-type: none"> ・対話探究 ・社会探究（グループ） 		<ul style="list-style-type: none"> ・仲間が立てた問いに関心を持ち、哲学対話を通じて自分事として捉えてみる。 ・グループ（4～6名）に分かれ、共生社会や多様性に関連するテーマを決め、できるだけたくさんの問いを立ててみる。 ・立てた問いの中から1つを選び、それに対するグループの意見を考え、その考えを支えるような資料を収集しながら探究活動を行う。 ・グループごとに発表を行う。発表はB紙やパワーポイント、寸劇、紙芝居、動画など様々な方法の中から自分たちに合うものを選んで行う（紙を読み上げるだけは不可）。 ・発表を聞いている側は、発表の内容について質問できるようにする。またどうすればもっと良くなるかフィードバックする。 				
3	・振り返り		<ul style="list-style-type: none"> ・1年の総まとめとして、個人社会探究に取り組むにあたり、これまでを振り返る。社会課題について考え、より良くしていくために何ができるか考える。 				
	<ul style="list-style-type: none"> ・社会探究（個人） 		<ul style="list-style-type: none"> ・冬季休業中にワークシートを使って、個人社会探究を行う。 ・1年間の総まとめとして、一人ずつ発表を行う。発表はB紙やパワーポイント、寸劇、紙芝居、動画など様々な方法の中から自分たちに合うものを選んで行う（紙を読み上げるだけは不可）。 ・発表を聞いている側は、発表の内容について質問できるようにする。またどうすればもっと良くなるかフィードバックする。 				
学習についてのアドバイス	<p>キャリア探究Ⅲは、「対話探究」と「社会探究」、それに伴う「振り返り」という3つの柱から構成されています。「対話探究」では、テーマから問いを立て対話する哲学対話というものを行って、仲間と共に「問う、考える、語る、聞く」という活動を行います。お互いの価値観の違いに気づいたり、その違いの根底に共通するものがないかを探したりします。「社会探究」では、立てた問いに対して自分の意見をまとめるための資料収集や、違和感を感じた社会の事柄（社会課題）について、各自ができることを探していくための探究活動を行います。「振り返り」は、各自あるいは仲間と共にこれらの取り組みをより良くしていくために行います。</p> <p>人と人がつながる対話を通じて、「問い」について、自分自身や他者と考え、よりよい答えを探し続けることができる、この探究の時間がそのような時間になることを願っています。</p>						